

自分の短所を見直す

グエン スアン チュオン
NGUYEN XUAN TRUONG

半年前、業務に必要な技術力と日本語力を取得する目的で研修生として日本へ来ました。研修中は会話力がとても必要で、生活では支障が無いレベルでも仕事ではより高度な会話を使います。日本語を勉強する上で自分の短所を見つけることが出来ました。今回は「自分の短所を見直す」というテーマで話したいと思います。

現在、日産テクノという自動車設計会社で研修を受けています。担当はエンジンの音や振動の解析で、ベトナムで勉強した基礎をもとに結果を出力するまでを学んで帰国します。来日したからには日本語をマスターしたいと思いましたが、子供の頃から無口だと言われてきた私はあまり会話が出来ていません。専門分野の学習はほとんど手順書を読みながら進めていたので、十分に理解するのが難しく、質問したい時が多かったです。聞けばいつも熱心に教えてもらえますが、周りの人が忙しく仕事をしているので遠慮して聞けない時もありました。こうして、朝夕挨拶を言っただけで終わってしまう一日もありました。遠慮は良い態度に見られる反面、大人しい消極的にも見られてしまいます。日本人から「以前来ていた研修生よりも沢山資料が用意されているので羨ましがるよ」と言われて、真面目に勉強しなくてはいけない気持ちを持つ

て研修を進めてきました。日本では、真面目な人は一人でコツコツやる人だと聞きました。私の場合、会話に関して消極的な結果になっていました。

「遠慮」も「真面目」も日本文化の良い言葉だと思います。言葉の意味もよく調べました。遠慮は他人のことを考えて行動するという意味で、真面目は日本経済が発展した理由だと分かりました。しかし反面消極的にも見えます。私の場合、これが短所になっていました。日本語では「長所半分、短所半分」、昔のベトナム語では「人無十全」という諺があります。どちらも意味は同じです。良いところも悪いところもありますが、悪いところを良いものに変えることが出来ます。ですから人間は自分の短所を見直しながら、成長していくのが大切なことだと思います。

研修の半年間が過ぎて自分の短所を発見することが出来ました。これからはそれを直します。会話が向上する様に積極的に話し掛けて遠慮も少しにしてはっきりと言えるようにしていきたいと思います。残りの研修期間で良い成果が出せるように、そして帰った時の仕事が上手く進められるように努力します。消極的を積極的に変えることが私の「自分の短所を見直す」です。